

## 令和4年度学校関係者評価アンケートまとめ

令和4年度の学校関係者評価アンケートは、大きな変更として、オンラインによる回答形式になった。その結果、アンケートの回収率は、保護者対象のアンケートが64.5%（423／655）、地域対象のアンケートが59.7%（55／92）であった（地域対象アンケートは紙での回答を併用）。課題は多いが、オンラインによる回答への移行は、昨今の社会情勢においては自然な流れと言える。これまで90%前後を保ってきた保護者回答率の低下については、今年度の課題を整理し、改善策を講じたい。

引き続きの新型コロナウイルス感染症の影響により制限はあったものの、評価委員は一部の学校行事や学校公開の参観が可能となった。しかし、限定的な参観のため、今年度もアンケート結果を基にした分析が中心となった。なお、文中の「肯定的な評価」は、アンケートの評価「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」のうち、「とても思う」「思う」を合わせたものの割合を示す。

## 学校の教育活動についての評価の高かった項目と評価者によるギャップについて

- ・児童アンケートの評価項目24のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—15項目
- ・保護者アンケートの評価項目39のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—16項目
- ・地域アンケートの評価項目17のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—7項目

特に評価が高かった項目は以下の通りである。

＜児童＞・授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。

【肯定的評価 98.3%】（保護者同項目評価 80.1%）

- ・先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。【97.2%】（保護者同項目評価 77.1%）
- ・先生は、ていねいに指導してくれる。【97.2%】（保護者同項目評価 79.9%）

＜保護者＞・本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。【94.5%】

- ・学校行事は、子どもにとって達成感がある。【93.8%】
- ・学校行事は、子どもにとって楽しい。【93.7%】

＜地域＞・学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。【92.7%】

- ・学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。【90.9%】
- ・通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。肯定的評価【89.1%】

保護者・地域の評価結果から、「安全」に関わる項目の高い評価が目立った。この評価は、学校の安全教育の取り組みに加え、完成した正門のオートロック化など、学校の安全性全体への評価であると捉えた。

児童の評価結果から、松原小学校では、児童が課題をもち、友達と考えていることを話し合う学習が丁寧に展開されていることが分かる。ただ、同項目の保護者の評価を見ると、それぞれ10～20%も低い評価結果となっている。今年度、運動会や学芸会などの大きな行事では、保護者参観の制限が緩和された。学校行事についての保護者の評価が高いことから考えると、やはり直接参観できた内容については、良さが正しく伝わり、高い評価となったと言える。地域の評価結果を見ても、長引くコロナ禍によって直接の交流や児童の活動を見る場面が減り、学校や児童の様子が伝わりづらくなっている現状が続いているため、「わからない」の割合が多くなり、肯定的評価が低い項目も多くなかった。このギャップは、この後に示す他の様々な項目についても同様の傾向が見受けられる。今後も感染状況を見極めながら、可能な限り、学校や児童の様子を保護者・地域の方に見ていただく機会を設けるとともに、一層の情報発信に力を入れて取り組んでいってほしい。

## タブレット型情報端末等 ICT の活用についての情報提供と家庭との連携

**児童**「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」**肯定的評価 94.4%**

**保護者**「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」**肯定的評価 62.7%**

**保護者**「本校は、様々な教育活動（オンライン授業・通常授業・各種会議等）の中で、Zoom や Microsoft Teams、ロイロノート等の ICT（情報通信技術）を適切に活用している。」**肯定的評価 69.5%**

児童の評価結果からは、タブレット端末が様々な教科で文房具のように使われ、更に活用が進んでいる様子が伺える。しかし、この項目についても、児童の評価と保護者の評価には大きな開きがある。学校は ICT の活用を更に進めるとともに、活用の状況を保護者に十分に情報提供していくよう努める必要がある。また、家庭でのタブレット端末の使用の仕方が、評価の開きに影響を及ぼした可能性も考えられる。タブレットが、学校でも家庭でも、正しく学習用具として使用されるよう、家庭との連携した活用の推進を図ってほしい。

## 読書が好きな児童を増やすための方策

**児童**「わたしは、本を読むことが好きである。」**肯定的評価 62.5 (60.7%) 否定的評価 32.4 (35.6%)**

**保護者**「子どもたちは、読書が好きである。」**肯定的評価 60.7% (63.4%) ( ) 内は昨年度の数値**

「読書」に関する項目については、今年度も肯定的評価は6割程度に留まった。学校では様々な形で本に触れ、児童が本への興味を高める機会を設けてきているが、その中でも一定数の児童が読書に対する苦手意識をもっている現状について考え、解決策を講じる必要があるのではないか。例えば、本への興味が薄い児童が本を好きになる入口に立てるよう、児童が興味をもつような「マンガ」「ライトノベル」を多く取り入れるなど大胆な策も検討してみてはどうか。「本のリクエスト」などの取り組みも有効であろう。学校には、今後も本に触れる十分な機会を保障するとともに、将来の読書習慣につながる活動の更なる充実を図ってほしい。

## キャリア教育の推進と周知

**児童**「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」**肯定的評価 81.8% (60.5%)**

**保護者**「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」**肯定的評価 42.1% (45.2%)**

今回の児童の評価結果で一際目を引いたのは、キャリア教育に関する本項目であった。昨年度から 20% 超の上昇となっている。キャリアパスポートを活用しながら、積み上げてきた様々な活動への振り返りが児童の実感へつながり、結果に表れたものと思われる。この項目においても、保護者との評価の差異が大きい。

## 自己肯定感を育む教育の着実な積み重ね

**児童**「わたしにはよいところがあると思う。」**肯定的評価 64.8% (58.5%) わからない 17.0% (19.6%)**

今年度は、自己肯定感に関する数値も上昇した。自己肯定感は、児童にとって今後の成長の基盤となるものであり、学校や家庭での人との関わりの中で少しずつ積み上げられていくものである。「自分にはよいところがある」と表現できる児童が増えるよう、家庭と連携した取り組みを充実させてほしい。

## 学び舎の区立中学校の情報提供と直接的な交流活動の充実

**児童**「区立中学校に関する情報が提供されている。」**肯定的評価 58.5% (36.8%)**

**保護者**「学び舎の区立（幼稚園）中学校についての情報が提供されている。」**肯定的評価 33.1% (44.8%)**

**児童**「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。」**50.5% (昨年度項目なし)**

**保護者**「本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する『学び舎』による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」**42.5% (昨年度項目なし)**

情報の提供や交流について、学び舎の直接的な交流活動が復活したことが児童アンケート結果の数値上昇に表れたと思われる。ただ、中学生との交流の項目を学年別に見ると、「5年生 27.5%」に対して、「6年生 69.8%」と大きく開いており、直接交流を複数回行った6年生の結果は高く出た。5年生に対しても、今後の進路についての見通しをもたせる交流の計画について伝えたり、あいさつ運動に来る中学生の活動を価値付けて伝えたりすることは、児童のキャリア教育にもつながっていくのではないか。